

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3200348号
(U3200348)

(45) 発行日 平成27年10月15日 (2015. 10. 15)

(24) 登録日 平成27年9月16日 (2015. 9. 16)

(51) Int. Cl.		F 1			
A 4 7 C	9/00	(2006. 01)	A 4 7 C	9/00	A
A 4 7 C	4/04	(2006. 01)	A 4 7 C	4/04	A

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 実願2015-3816 (U2015-3816)
 (22) 出願日 平成27年7月29日 (2015. 7. 29)

(73) 実用新案権者 500006764
 長谷川 猛
 新潟県燕市吉田曙町 9-9
 (74) 代理人 100063819
 弁理士 牛木 理一
 (72) 考案者 長谷川 猛
 新潟県燕市吉田曙町 9番 9号

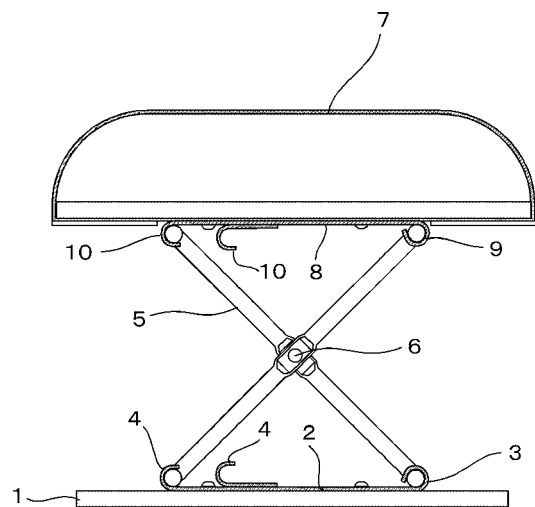
(54) 【考案の名称】 携帯用正座椅子

(57) 【要約】

【課題】 本考案は、老人や脚部に障害を有する者にあつては正座することが困難であるため、補助椅子を使わねばならない場合があるところ、複数段に分かれて折り畳みし得るような正座用の補助椅子を提供することを目的とする。

【解決手段】 基板 1、1 上に設置する下調節板 2 の一端部に下基点部 3 を設けるとともにこの下基点部の反対位置の下調節板の他端部に適当間隔をおいて複数の下掛止部 4、4 を設け、正面×状に枢着 6、6 した前後側 2 本の折り畳み脚材 5、5 の一方部は前記下調節板の下基点部に係合し、この折り畳み脚材の他方部は前記下調節板の下掛止部の一つに掛止めるようにし、前記 2 本の折り畳み脚材の他方部は座部材下に設置する上調節板 8 の一端部に上基点部 9 を設けるとともにこの上基点部の反対位置の下調節板の他端部に適当間隔をおいて複数の上掛止部 10、10 を設けて成るものである。

【選択図】 図 2



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

基板上に設置する下調節板の一端部に下基点部を設けるとともに、この下基点部の反対位置の下調節板の他端部に適当間隔をおいて複数の下掛止部を設け、正面×状に枢着した前後側 2 本の折畳み脚材の一方部は前記下調節板の下基点部に係合し、この折畳み脚材の他方部は前記下調節板の下掛止部の一つに掛止めるようにし、前記 2 本の折畳み脚材の他方部は座部材下に設置する上調節板の一端部に上基点部を設けるとともにこの上基点部の反対位置の下調節板の他端部に適当間隔をおいて複数の上掛止部を設けて成ることを特徴とする携帯用正座椅子。

【考案の詳細な説明】

10

【技術分野】

【0001】

本考案は、携帯用の正座椅子に関するものである。

【背景技術】

【0002】

老人や脚部に障害を有する者にとっては正座することが困難であるため、補助椅子を使わねばならない場合があるところ、従来、公知文献としては、次のようなものが知られており、これには高さ 12cm の脚部が折り畳まれて高さ 6cm 程度になるという説明があるものである。

【先行技術文献】

20

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】 意匠登録第 723550 号公報

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、この公知文献に係る補助椅子は×状に成る脚部が単純に折り畳まれるだけのもので、複数段に分かれて折り畳みし得るような正座用の補助椅子ではないことに鑑み、本考案はこれを改良した補助椅子を提供することを目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

30

【0005】

本考案は、基板上に設置する下調節板の一端部に下基点部を設けるとともにこの下基点部の反対位置の下調節板の他端部に適当間隔をおいて複数の下掛止部を設け、正面×状に枢着した前後側 2 本の折畳み脚材の一方部は前記下調節板の下基点部に係合し、この折畳み脚材の他方部は前記下調節板の下掛止部の一つに掛止めるようにし、前記 2 本の折畳み脚材の他方部は座部材下に設置する上調節板の一端部に上基点部を設けるとともにこの上基点部の反対位置の下調節板の他端部に適当間隔をおいて複数の上掛止部を設けて成るものである。

【考案の効果】

【0006】

40

本考案においては、一回定型の高度調整だけではなく、使用者の正座時の希望に合わせた高さ調節を複数段に分けて行うことができるものであり、また長方形の座部材椅子の使用方向は横向きでも縦向きでもよい。

【0007】

しかも、比較的小型であるから、携帯用の正座椅子となり、常に安定性良く使用することができるのである。

【図面の簡単な説明】

【0008】

【図 1】 (A) (B) (C) は矢印により作用状態を含む全体の斜視図

【図 2】 図 1 (B) における正断面図

50

【図 3】図 1 (C) における正面図

【考案を実施するための形態】

【0009】

本考案の正座椅子を使用する場所は、一般的には畳敷の和室であるが、使用者はあくまでも正座時の両脚を曲げた時に、その間にはさんで腰掛けた座椅子として使用するものである。

【0010】

即ち、上方の座部材と下方の基板との間の前後側に介装する×状の折畳み脚材の位置を、それぞれ上下任意の掛止部に係合すれば、そのまま定位置として固定される。

【0011】

また、不使用時には、折畳み脚材の上下の掛止状態を各掛止部から離脱して、その基点部を支点に偏平状態に折り畳みすればよい。（この作用形態の動きについては、図 1 (A) (B) (C) の矢印を参照されたい。）

【実施例】

【0012】

1 は適当長さの縦巾と横巾から成る基板で、この基板上には下調節板 2 を設置する。

【0013】

3 は前記下調節板 2 での一端部に設ける下基点部で、この下基点部から反対位置の下調節板の他端部には、適当間隔をおいて複数の下掛止部 4、4 を設ける。この下掛止部 4 は 2 個以上の複数とする。

【0014】

5、5 は上端部に座部材 7 を設置した正面×状に枢着 6、6 して成る前後側 2 本の折畳み脚材で、この脚材の一方部は前記下調節板 2 の下基点部 3 に係合して支点となり、この脚材の他方部は下調節板 2 の下掛止部 4、4 の一つに掛け止めるようにする。

【0015】

8 は前記座部材 7 の底面部に設置する上調節板で、この上調節板の一端部には上基点部 9 を設け、この上基点部から反対位置の上調節板 8 の他端部には適当間隔をおいて複数の上掛止部 10、10 を設ける。この上掛止部 10 は 2 個以上の複数とする。

【符号の説明】

【0016】

1, 1	基板
2	下調節板
3	下基点部
4, 4	下掛止部
5, 5	折畳み脚材
6, 6	枢着
7	座部材
8	上調節板
9	上基点部
10, 10	上掛止部

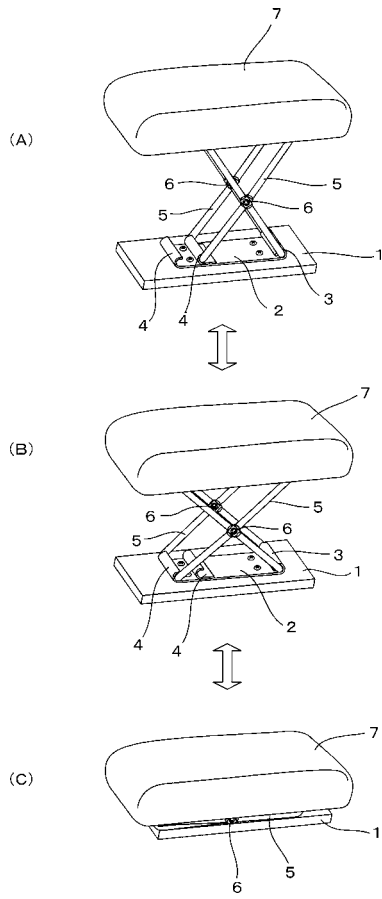
10

20

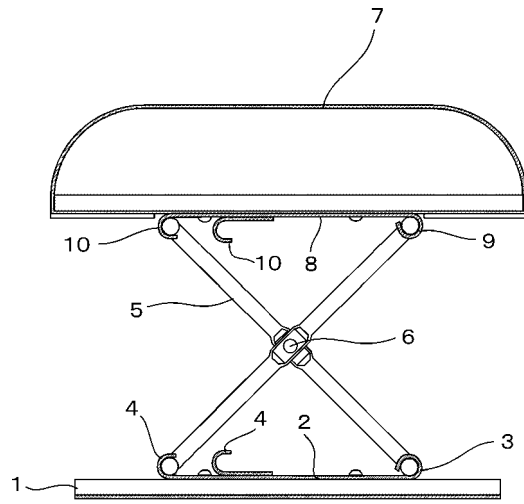
30

40

【図 1】



【図 2】



【図 3】

